



高度な専門性と
豊かな人間性・社会性を備えた
力量ある教員を育む大学院



令和3年度 岩手大学教職大学院

大学院教育学研究科

教職実践専攻
(専門職学位課程)



国立大学法人
岩手大学

スクールリーダーと 即戦力の新人教員を養成します

岩手大学大学院教育学研究科長 田代高章

岩手大学大学院教育学研究科(教職大学院)は平成28年4月に発足し、平成30年3月に1期生17名、令和3年3月には4期生17名が修了と、この間計70名が本学大学院を修了しました。修了生は、理論と実践の融合(往還)を通して修得した力量を発揮し、学校および教育行政の最前線で活躍しています。

本学教職大学院の現職院生は、岩手県教育委員会から派遣され、修了後は管理職や指導主事など、本県教育を牽引するスクールリーダーとなることが期待されています。また、学卒院生は修了後、即戦力となるスーパー教員として活躍することが期待されています。

その実現に向けて、専攻共通科目を中心とする学修プログラムのほか、「専門実習」と「教育実践リフレクション」をカリキュラムに位置づけ、学校現場の課題解決に資する実践的なフィールドでの研究を行っているのが大きな特色です。

現在は、新型コロナ対策による制約はありますが、研究スペースである院生室には、各自に専用机が配置され、学年を超え、現職院生も学卒院生も、大学院の授業や専門実習および個人研究を補完する学び合いやOJTの場ともなっています。また、学卒院生に対する独自の奨学金貸与制度も完備しています。

本学教職大学院は、岩手県教育委員会および盛岡市内を中心とする各学校等との連携・協力の下に、これからの学校教育の充実・発展に大きく貢献できる力量の高い教員の育成に努めています。



専門的・実践的力量を備えた 教員養成を

岩手県教育委員会教育長 佐藤博

令和2年度末、岩手大学教職大学院の4期生が修了し、現職院生と学卒院生を合わせてこれまでに60名以上の皆さんがそれぞれの勤務地において、2年間の学修の成果を大いに発揮しています。

4期生の現職教員の皆さんは、副校長、指導主事としての任用、また各地区の中核となる学校への配置がなされ、この4月からそれぞれの任地で新たなスタートを切って活躍しています。学卒院生の皆さんも、連携協力校を始めとする小中学校や県立学校で、2年間の専門的で実践的な深い学びを生かしながら、大変意欲的に業務を行っています。

昨年、急速に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、今も、児童生徒の学びに大きな影響を与えています。今後は「学校の新しい生活様式」に対応しながら、児童生徒一人ひとりの確かな学力を育成することに取り組んでいかなければなりません。

ICT機器等を活用した効果的な学習指導や、いじめや不登校など複雑化・深刻化する教育課題への対応などに取り組んでいくうえでも、教職大学院における理論と実践の融合を図った実践研究が今後ますます岩手の教育の充実に結びついていくものと確信しています。

県教育委員会としても引き続き、管理職や中核的なリーダー教員、授業力を磨くスーパー教員などをめざす多様な人材を派遣して参ります。また、実務家教員の人事交流や、専門実習等学修環境のサポートなど、教職大学院との一層の連携・協働を図って参ります。



いわての復興教育の授業



県教育委員会での実習



沿岸南部教育事務所管内での実習

教職大学院とは？

本学では「教育学研究科教職実践専攻」が教職大学院です。

教職大学院は、近年、学校教育の課題が多様化、複雑化する状況の中で、高い専門性と実践力を身に付けた高度専門職業人としての教員養成に特化した専門職大学院です。これまでの教育系大学院(修士課程)との違いは、専門実習、模擬授業、事例研究など実践的な教育内容が充実し、理論と実践を融合したカリキュラムとなっているところです。

●教育学研究科(教職実践専攻)の入学定員等

入学定員 16名(うち、岩手県教育委員会から派遣される現職教員は8名)

●学位名称、標準修了年限等

標準修了年限は2年で、修了者には教職修士(専門職)の学位が授与されます。また、教育職員一種免許状の保持者には専修免許状が授与されます。

人材養成像

学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げて、教職としての高度な専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成します。

具体的には、学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成します。



学校マネジメント力開発プログラム

現職院生 所 慎一郎



学校評価の進め方、まなびフェストの作成、GIGAスクール構想等、多くを学ぶことができた1年間でした。また、毎週金曜日のリフレクションを通して、他校種の先生方と教育の今日的課題等を協議することで、自己の考えを深く、広くすることができました。2年目は、さらに理論と実践の両輪を深く、広く、鋭く、なめらかになるよう邁進していきます。この教職大学院での学びに感謝しながら、今後の学校現場で活かしていきたいと思っています。

子ども支援力開発プログラム

現職院生 菊地亜矢子



「児童生徒が元気に毎日学校に来ることは、当たり前のことではない」「教師にとっての当たり前は、児童生徒にとっての当たり前ではない」子ども支援力に関わることとして、担当教授とのゼミの時間、各講義、各実習から学んだことです。それぞれ様々な思いを抱え、日々過ごしている児童生徒に私たち教員ができることは何か、しなければならないことは何か、残り1年をかけて学んでいきます。

授業力開発プログラム

現職院生 伊藤 汐里



ある日「子どもたちの意欲が向上した」と言える根拠は何ですか」と問われ、ハッとしました。現職院生の研究スタイルの一つに、今までの実践で有効だと「感じていた」手立てを“検証する”ものがあります。実践を真摯に省察し、授業改善につなげたいと感じています。他校種の院生と対話し子どもたちの成長を長期的・多角的に捉え直せたこと、現代的な諸課題から学校を見つめ直せたことも大学院での学びです。学修を深めて視野を広げ、学校現場に活かしたいと考えています。

学卒院生 村上友香



学部の時に学んだ理論を実践と結びつけて考えることで、さらに深い学びにつながっていると感じた1年間でした。また、日々の講義や実習を通して、教育現場で働く前に、授業力だけでなく、マネジメントや特別支援教育などの多様な視点から教育について考えることができるようになることも強みだと感じています。学校現場をよく知る教授からの指導、経験豊かな現職院生の先生方と共に学べる恵まれた環境に感謝しながら、さらに学びを深めていきたいです。

学卒院生 田村 紘大



数々ある教職大学院の魅力の一つに、多くの立場からの意見を得られることが挙げられると思います。校種や世代、そして経験の異なる院生や教員の先生方が集まって意見を交わし合うことで、これまで自分の立場や経験でしか考えられなかった範囲から、より幅広い視点を得られることができます。さらに、理論知と経験知を融合することにより、理論で得られたことをすぐ実践、実践で得られたものを理論に落とし込むといったサイクルが生まれ、このサイクルは現場に出ても生き続けていくのではないかと思います。

学卒院生 大村 岳



「教職大学院はこういうところ」新しい学びや知識があるところ、先生方がより近く手厚く指導してくれるところ、自分の校種だけでなく他の校種の人たちからの見方を知ることができる、協議できるところ、「教職大学院とは?」と訊かれたらこのような事が思い浮かびます。また、この一年間を振り返ると、学びの共有や新たな発見が溢れていることや、それに伴う自己の閉鎖的な視野が開かれている事を特に実感しています。

特別支援教育力開発プログラム

現職院生 熊谷美智子



これまで「特別支援教育」というミクロな視点だけで物事を捉え、考えることが多かった自分にとって、教職大学院は「教育」全体や「つながり・かわり」といった新たなそしてマクロな視点を与えてくれる貴重な学びの場です。様々な講義や実習、他校種の現職院生や学卒院生と共に学び、対話することを通して、自分のこれまでの実践や経験を振り返りつつ、「伝える」ことの大切さと難しさを実感する毎日です。今後も学び続けていきます。

学卒院生 沼崎 悠華



学部生のときは違う分野のプログラムに入学し、最初は不安な気持ちでいっぱいでしたが、講義や実習を通して、様々な視点から学びを深めることができたと思います。また、現職院生の先生方や、実習校の先生方・生徒のみなさんがいつもあたたかく迎え入れてくださる環境があることをありがたく感じています。今後もさらに学びを深め、現場に出た際に、それを一人でも多くの子どもたちに還元できるよう、頑張っていきたいです。

カリキュラムについて

4つのプログラム制 学修ニーズに応じて以下のプログラムを選択します。

1 学校マネジメント力開発プログラム (現職院生のみ対象)

学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量的の修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、主幹教諭及び指導主事等)を育成する。

2 授業力開発プログラム

教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

3 子ども支援力開発プログラム

いじめや不登校など、子どもたちの生活上・発達上の諸課題を的確に把握し、適切な支援ができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

4 特別支援教育力開発プログラム

特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。特別支援学校教諭専修免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の取得が可能。

専攻共通科目(必修)

- ① 特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ② 学習指導要領とカリキュラム開発
- ③ 学力の向上と学習意欲
- ④ ICT 活用教育の実践と課題
- ⑤ 学校カウンセリングの理論と実践
- ⑥ 通常学級における特別支援教育の実践と課題
- ⑦ 心理教育的援助サービスの理論と実践
- ⑧ 学校経営の実践と課題
- ⑨ 岩手の教育課題
- ⑩ 専門職としての教員の在り方とその力量形成

選択科目

学校マネジメント力開発プログラム

- ① 学校マネジメントの理論と実践
- ② いわたの復興教育の実践と課題 など5科目

授業力開発プログラム

- ① 教科の指導と評価の実践研究
- ② 授業の構想と教材研究 など15科目

子ども支援力開発プログラム

- ① 子ども支援のための学校臨床心理学
- ② 発達援助の理論と実践 など6科目

特別支援教育力開発プログラム

- ① 特別支援学校の実践力I
- ② 通常学級における特別支援教育 など9科目

実習科目(必修)

学部段階の基礎的・基本的な教育実習(現職院生の場合は教職経験)を踏まえ、教科等の学習指導、生徒指導、学級・学校経営に関する高度で実践的な指導力の育成を目的とします。連携協力校、教育委員会、総合教育センター等で実施します。

リフレクション科目(必修)

学校現場での実習で得られる学校実践知を教育理論知と融合させて、教育課題の解決に資する実践的力量的を育成するために、2年間を通しての必修科目として配置する科目です。

履修スケジュール

		1年次											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学 卒 院 生 の 場 合	専攻共通科目(6科目・12単位)	専攻共通科目(6科目・12単位)						専攻共通科目(4科目・8単位)					
	プログラム別選択科目(8科目開講)	プログラム別選択科目(8科目開講)						プログラム別選択科目(12科目開講)					
	特別支援教育力開発プログラムの実習は、他のプログラムとは別に行います。	特別支援教育力開発プログラムの実習は、他のプログラムとは別に行います。						特別支援教育力開発実習I (学校マネジメント力・授業力開発実習) (4W) ※附属特支					
	授業力・子ども支援力・学校マネジメント力開発実習 (計160H) ※附属校	授業力・子ども支援力・学校マネジメント力開発実習 (計160H) ※附属校						教育実践研究 中間発表会					
教育実践リフレクションI	教育実践リフレクションI						教育実践リフレクションII						
授業力開発基礎演習 (計10H)	授業力開発基礎演習 (計10H)		子ども支援力開発基礎演習 (計10H)		学校マネジメント力開発基礎演習 (計10H)		教育実践リフレクションII						
現 職 院 生 の 場 合	専攻共通科目(6科目・12単位)	専攻共通科目(6科目・12単位)						専攻共通科目(4科目・8単位)					
	プログラム別選択科目(8科目開講)	プログラム別選択科目(8科目開講)						プログラム別選択科目(12科目開講)					
	授業力開発実習(計80H) ※公立連携校	授業力開発実習(計80H) ※公立連携校						学校マネジメント力開発実習 (計40H) ※県教委及び総合教育センター等					
	学校マネジメント力開発実習は全員が行います。	学校マネジメント力開発実習は全員が行います。						子ども支援力開発実習 (計60H) ※附属校で実施					
特別支援教育力開発実習II (授業力開発実習) (2W) ※附属特支	特別支援教育力開発実習II (授業力開発実習) (2W) ※附属特支						教育実践研究 中間発表会						
教育実践リフレクションI	教育実践リフレクションI						教育実践リフレクションII						



時間割例 (授業力開発プログラム選択・学卒院生の場合)

専攻共通科目 選択科目

[1年次前期] 学修導入期・研究課題設定期

曜日	1	2	3	4
月		学力の向上と学習意欲	学校マネジメントの理論と実践	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
火	専門職としての教員の在り方とその力量形成	学校カウンセリングの理論と実践	小学校英語の実践と課題	
水	岩手の教育課題	教科の指導と評価の実践研究		心理教育的援助サービスの理論と実践
木				
金	教育実践リフレクションI ①学校マネジメント力開発基礎演習 ②授業力開発基礎演習 ③子ども支援力開発基礎演習			

木曜日は配属校で実践実習をします。

[1年次後期] 学修展開期・研究課題探究期

曜日	1	2	3	4
月	通常学級における特別支援教育の実践と課題	ICT活用教育の実践と課題		授業の構想と教材研究
火	学習指導要領とカリキュラム開発	社会科教育の実践と課題		
水	学校経営の実践と課題		いわての復興教育の実践と課題	
木	総合実習 (①学校マネジメント力開発実習 ②授業力開発実習 ③子ども支援力開発実習)			
金	教育実践リフレクションII			

[2年次前期] 学修深化期・研究課題深化期

曜日	1	2	3	4
月				理論と実践の往還・融合による研究課題とその解決策の検証と深化を図っていきます。
火		算数・数学科教育の実践と課題		
水			道徳教育の実践と課題	
木	学校マネジメント力開発実習(4月、9月)、授業力・子ども支援力開発実習(6月)			
金	教育実践リフレクションIII			

[2年次後期] 学修完結期・研究課題総括期

曜日	1	2	3	4
月		生活科・総合学習の実践と課題		
火				研究課題のまとめを行い、「教育実践研究報告書」を作成します。
水				
木	授業力・子ども支援力開発実習(11月)			
金	教育実践リフレクションIV			

岩手大学教職大学院 修了要件単位表	専攻共通科目 (必修)	選択科目			実習科目 (必修)	リフレクション科目 (必修)	計
		プログラム別必修	プログラム別選択	科目選択			
	20	4	4	6	10	4	48

授業や専門実習では、現職院生と学卒院生が協働・交流し、学び合います。

学校心理士の受験資格を得ることもできます。

「理論と実践の融合」を目指す教職大学院の授業では、理論面を研究者教員が、実践面を実務家教員(小・中・高・特支校長等経験者)が担当し、多くの授業をチームティーチングで実施します。そこでは演習を重視します。

院生の学修は、学校経営学、教育方法学、教科教育学、学校臨床心理学、特別支援教育学をそれぞれ専門とする研究者教員8名と実務家教員7名、これに加えて教育学部所属の20名をこえる研究者教員でサポートします。

「教育実践研究報告書」の執筆の過程では、院生一人一人が学校現場に貢献するテーマを選定し、その内容に応じて研究者教員と実務家教員がチームでサポートします。

2年次

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラム別選択科目(10科目開講)					プログラム別選択科目(5科目開講)					
	授業力・子ども支援力開発実習(計80H) ※公立連携校		教育実践研究中間発表会	学校マネジメント力開発実習(計40H) ※公立連携校		授業力・子ども支援力開発実習(計80H) ※公立連携校		特別支援教育実習I(子ども支援力開発実習)(6W) ※附属特支(一部公立連携校)		教育実践研究発表会
教育実践リフレクションIII					教育実践リフレクションIV					

5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プログラム別選択科目(10科目開講)					プログラム別選択科目(5科目開講)					
学校マネジメント力開発実習(計80H) ※公立連携校	授業力・子ども支援力開発実習(計80H) ※公立連携校		教育実践研究中間発表会	学校マネジメント力開発実習(計40H) ※教育事務所等		子ども支援力開発実習(計60H) ※附属校		特別支援教育実習II(子ども支援力開発実習)(5W) ※附属特支(一部公立校)		教育実践研究発表会
教育実践リフレクションIII					教育実践リフレクションIV					

≫ 専門実習について



Q **1** マネジメント力開発実習とは、
A どのようなことをするの？

学校経営や教育行政にかかわる実際的な業務内容を実習します。学卒院生は、連携協力校での校務分掌を実習内容に含みます。現職院生は、教育委員会や教育センターでの事務局業務や研修の運営業務などを実習内容に含みます。

盛岡第一高等学校

Q **3** 子ども支援力開発実習とは、
A どのようなことをするの？

教科指導以外の教育活動（学級経営、進路指導、教育相談等）を実習します。児童生徒の状態を把握し、その課題解決を目指した具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。

城南小学校

Q **2** 授業力開発実習とは、
A どのようなことをするの？

授業づくりを実習します。単元の指導計画を立案し、授業実践とその評価まで行います。その中で具体的かつ有効な授業方法を開発、検証します。

下小路中学校

Q **4** 特別支援教育力開発実習とは、
A どのようなことをするの？

特別支援学校における授業づくりはもちろんのこと、教科指導以外の教育活動、通常学級への巡回相談等を実習します。その中で、具体かつ有効な支援方法を開発、検証します。

附属特別支援学校

≫ 教育実践研究テーマの例

学校マネジメント力開発プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校の校務分掌の実態と課題 ー学校活性化のためにー ● 中学校における復興教育の課題 ー教育的価値項目「生きる」に視点をあてた復興教育の実践ー ● 岩手県における小学校教科担任制の実施状況と課題 ー学校の実態に応じた教科担任制の在り方についてー
子ども支援力開発プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 援助要請行動のための心理教育プログラムの提案
授業力開発プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 中高接続を意識した新学習指導要領対応「Can-DOリスト」の開発 ● 「やり取り」の達成感を高める小学校外国語活動の実践 ークラスルームイングリッシュの活用焦点をあててー ● 児童の理科に対する興味の深化を促す授業づくり
特別支援教育力開発プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● 小・中学校等の特別支援教育に関するエンパワメント促進の実践 ー岩手県における「段階的な支援」体制を活用するためのツール開発ー

>> 修了生インタビュー



花巻市立八重畑小学校 副校長 若松優子

4月より、花巻市立八重畑小学校にお世話になっております。八重畑小学校では、地域の方々にご指導をいただきながら「神楽」の継承や八重畑地区の特性を生かした「ふるさと八重畑地元学」に取り組み、地域、関係機関と協働しながら地域のよさを見つめ、地域を愛する児童の育成に努めています。教職大学院では、講義や専門実習の中で異校種の現職院生、学卒院生との交流や大学、専門機関の先生方の教育に対する思いに触れ学びを深めることができました。自分自身の新たな気づきや成長となった2年間でした。これからも様々な人との関わりを大切にし、教職大学院で学ばせていただいたことを還元していきたいと考えています。



県南教育事務所 指導主事 板井直之

国の動向や県の方針を踏まえた教育施策の理解、人間形成という教育の基軸、目的を共有することの重要性、「子どもたちにとってどうか」という視点、「本質」を見失わない大切さなど、教職大学院での学びが糧となっていると感じる場面が多くあります。時に自分の無力さを感じることもありますが、現在地を知ることが、自らを高め続ける原動力になると再確認できたことも貴重な学びの1つです。子どもたち、学校現場のために「自分に何ができるのか」を考え、「岩手の教育」を推進するために、力を尽くしていきたいと思っております。



中部教育事務所 指導主事 三浦 健

4月から教育行政に関わることとなり、学校・教育委員会・関係機関の連携が問われる業務内容に取り組んでいます。初めての経験がたくさんある中で、特に大きな支えとなっている考えは「人とのつながりを意識すること」「俯瞰的な視点と子ども一人一人の視点の両面から考えること」です。このような考えをより意識するようになった要因は、教職大学院での授業や実習を通して、学校マネジメント・子ども支援・授業力開発を総合的に学んだことでした。今後は、これまでの学校現場での経験と2年間の学びを、教育行政での実践に往還・融合させていくことが自分の課題です。広い岩手の子どもたちと先生方を想像し、教育の向上を目指して自己研鑽を続けてまいります。



盛岡市立大宮中学校 教諭 高橋龍太郎

教育について幅広く学んだ大学院の2年を通して、最終的に行き着いたのは、目の前の生徒と真摯に向き合うことが必要だというごくシンプルで根源的な考えでした。現場に出た今、まず一人ひとりの声を聞くことから始めています。話を聞き、共に悩み、共に涙し大笑いし、時には恋愛相談にも乗ります。真正面から生徒とぶつかっていく中で本音を語る場面も増え、日に日に学級や授業が活性化していくことを実感し、些かの手応えと万斛のやりがいを感じています。日々省察を繰り返す学級経営も授業実践も、大学院で「学び方」を学べた(周囲の先生方とコミュニケーションをとることも含め)ことが大きな強みです。研究は報告書で終わりではなく、現在も挑戦を続けています。実践はまだまだ始まったばかりです。

>> 修了生進路 (令和3年4月現在)



第1期生

【現職院生】

大船渡市立大船渡小学校校長
宮古市立川井中学校校長
奥州市立衣里小学校副校長
北上市立江釣子小学校主幹教諭
奥州市立江刺第一中学校教諭
岩手県立盛岡ひがし支援学校教諭
岩手県教育委員会学校教育室指導主事
宮古教育事務所指導主事

【学卒院生】

盛岡市立城南小学校教諭
盛岡市立仙北小学校教諭
奥州市立水沢南中学校教諭
久慈市立宇部中学校教諭
岩手県立千厩高等学校教諭
岩手県教育委員会教育行政職
一関学院高等学校教諭
宮城県多賀城市立第二中学校教諭

第2期生

【現職院生】

八幡平市立平館小学校副校長
盛岡市立城南小学校教諭
奥州市立水沢小学校教諭
遠野市立遠野西中学校副校長
岩手県立盛岡第一高等学校教諭
岩手県立盛岡ひがし支援学校教諭
住田町教育委員会指導主事
金石市教育委員会主任指導主事

【学卒院生】

盛岡市立桜城小学校教諭
盛岡市立厨川小学校教諭
一戸町立一戸小学校教諭
盛岡市立下小路中学校教諭
盛岡市立上田中学校教諭
八幡平市立西根中学校教諭
滝沢市立滝沢中学校教諭
岩手県立盛岡みたち支援学校教諭
仙台市立榴岡小学校教諭
北海道立名寄高等学校教諭

第3期生

【現職院生】

山田町立山田小学校副校長
滝沢市立一本木中学校副校長
盛岡市立黒石野中学校主幹教諭
盛岡市立厨川小学校教諭
岩手県立気仙光陵支援学校副校長
岩手県教育委員会教職員課主任経営指導主事
遠野市教育委員会指導主事
久慈市教育委員会指導主事

【学卒院生】

盛岡市立仙北小学校教諭
盛岡市立山岸小学校教諭
盛岡市立上田小学校教諭
盛岡市立緑が丘小学校教諭
盛岡市立津志田小学校教諭
矢巾町立矢巾東小学校教諭
盛岡市立仙北中学校教諭
岩手県立宮古恵風支援学校教諭
岩手県立大船渡高等学校講師
秋田県立大曲工業高等学校講師

第4期生

【現職院生】

花巻市立八重畑小学校副校長
岩手県教育委員会学校教育室指導主事
県南教育事務所指導主事
中部教育事務所指導主事
久慈市教育委員会指導主事
大船渡市立大船渡北小学校副校長
岩手県立金石祥雲支援学校教諭

【学卒院生】

盛岡市立城南小学校教諭
盛岡市立仙北小学校教諭
島根県出雲市立四絡小学校教諭
盛岡市立河南中学校教諭
盛岡市立大宮中学校教諭
岩手県立盛岡農業高等学校教諭
岩手県立沢前明峰支援学校教諭
岩手県立久慈拓陽支援学校教諭
筑波大学大学院人間総合科学学術院(博士課程)

教職大学院を修了後にはこんなメリットもあります。

●岩手県内の公立学校では、教職大学院での学修内容が考慮され、校内の初任者研修が150時間から75時間に軽減されています。

●岩手県採用の大学院・教職大学院修了者の初任給は、学部卒業者216,532円に対して238,668円となり、教職修士(専門職)への優遇もされています。

●教育実践をリフレクションする習慣が身につく、修了後も教職大学院や教育関係機関と連携し、教育実践研究を継続、発展させることができます。

>> 教育学研究科(教職大学院) 在籍者数

(令和3年4月現在)

入学年度	プログラム	学卒院生	現職院生	合計
令和2年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	7	3	10
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	1	1	2
	小計	8	8	16
令和3年度	学校マネジメント力開発		3	3
	授業力開発	9	3	12
	子ども支援力開発	0	1	1
	特別支援教育力開発	0	1	1
	小計	9	8	17
	合計	17	16	33

>> 教育学研究科(教職大学院) 専任教員

研究者 教員

田代 高章
立花 正男
鈴木 久米男
山本 奨
中村 好則
清水 将
佐々木 全
高田 麻美

実務家 教員

加藤 孔子
佐藤 進
川上 圭一
田村 忠
佐藤 信
菅野 亨
坂本 有希

>> 入学者選抜方法の概要

- 一般学生対象 筆記試験と口頭試問及び学修・研究の構想レポート、出身大学(学部)の成績証明書を総合して判定します。(志願者数/平成29年度20名 平成30年度15名 平成31年度16名 令和2年度14名 令和3年度14名)
- 現職教員対象 学修・研究の構想レポート、教育活動・実践履歴書及び口頭試問を総合して判定します。なお、現職教員とは、現に教職にある者又は教育関係機関の職員であって、岩手県教育委員会から派遣される予定の者となります。

>> 学修支援Q&A

Q A 1 どんな施設で学修するの?

教育学研究科棟という教職大学院専用の施設があります。この中の院生室では一人一台のパソコンが貸与、無線LANも完備されています。演習室には電子黒板等のICT機器も備え、いつでも利活用できます。

Q A 2 教員採用試験での特例措置とは、どのようなこと?

岩手県の教員採用試験に合格し、その上で教職大学院に進学した学卒院生や在学中に合格した学卒院生は、大学院修了(最大2年間)まで名簿登載期間を延長することができます。なお、合格した出願区分の学校種・教科等の専修免許を取得することが条件です。

Q A 3 奨学金制度とは、どのようなこと?

学卒院生を対象とした教職大学院奨学金の貸与制度があります。岩手県の教員に採用され、5年間勤務すれば貸与された奨学金は返還免除となります。

教育学研究科棟(教職大学院)



交通案内(盛岡駅から)

■バス利用

盛岡駅前東口バスターミナル11番のりば

岩手県交通バス 駅上田線
乗車-「松園バスターミナル行き」
下車-「岩手大学前」

岩手県交通バス 駅桜台団地線
乗車-「桜台団地行き」
下車-「岩手大学前」

■タクシー利用 盛岡駅から約2km 約10分

■徒歩 盛岡駅から約25分



岩手大学 教職大学院

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号
TEL.019-621-6840 FAX.019-621-6841
E-mail emaster@iwate-u.ac.jp
URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学 教育学部

TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail eduim@iwate-u.ac.jp



この冊子は環境に配慮した用紙を使用しています。